

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 7月 21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4075500316		
法人名	社会福祉法人 笠松会		
事業所名	グループホーム 笠松の郷		
所在地 (電話番号)	福岡県宮若市上有木320 (電話) 0949-33-1255		
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成19年6月23日		

## 【情報提供票より】19年5月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>		<del>新築</del> /改築	
建物構造	鉄筋		造り	
	1階建ての	1階	~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費	有り	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(平成19年5月1日現)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	76歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人笠松会 有吉病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな田園地帯、しかも少し小高い所に系列の病院や施設と共に位置し緑も多く、心に和みを感じられる。ホームの前に立つと、利用者一人ひとりの郵便受けがあり、時には職員が利用者に手紙を出している。ホームは決して広くはないが使い慣れた家具が持ち込まれ、照明は系列病院の職員が手作りしたシェードが掛けられ、間接照明になり柔らかさが感じられる。到る所に職員の利用者に対する思いが感じられる。またしっかりアセスメントが取られ、しっかりと介護計画が立てられ評価もしっかりなされ、随時の見直しも行われている。そして何より職員間、管理者と職員の関係が良好であり、信頼関係が保たれている。管理者より「私はこの職員に見て貰いたいと思います。この職員は、とても優しいケアをしています。ここまで出来るのかなと思います」と言う言葉が面談中何度も聞かれた。職員からも「職員同士の仲が良い、何でも話せる。でも管理者に一番何でも話す事ができます」という言葉が聞かれ、今後も管理者、職員間の良好な関係の下、理念である「生活のここちよさが生きるここちよさ」に向けて利用者本位のケアに磨きがかけていって事が期待される。「ただいまと帰っていったいホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、地域の神社のお祭りや、小学校の卒業式に参加したり、幼稚園、小学校、中学校の合同の運動会に参加し、地元の人々と交流をしている。今年4月に行われた5周年記念には地域の方に参加を呼びかけた。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価項目総てにおいて、今以上にレベルアップが出来るように、管理者、職員が一丸になり取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には理事長、常務理事、管理者、職員2名、老人クラブ、宮若市健康増進課、民生委員、知見者、利用者家族多数、利用者が参加し、デジカメを駆使し、声と映像で近況報告をしている。またその時々に応じた内容の話し合いを行っている。外部評価はコピーをし、家族、運営推進会議出席者に配布し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月写真入の便りを出している。また多くの家族が出席する運営推進会議でも、パワーポイントやデジカメで報告をしている。金銭の取り扱いは、毎月行っている個別の面談で報告、確認を行っている。苦情箱を設置しているが、家族の訪問も多くあり話せる雰囲気作りを心がけ、頂いた意見は職員間で迅速に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の神社の秋祭りや、小学校の卒業式に参加したり、幼稚園、小学校、中学校の合同の運動会に参加し、地元の人々と交流をしている。今年4月に行われた5周年記念には地域の方々に参加を呼びかけた。災害時の応援等も地域の協力をお願いしている。

## 2. 調査結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして事業所独自の理念をつくりあげている	「生活のこちよさが生きるこちよさになるところ」の理念が作られている。	○	今年度より地域密着型サービスとして「地域の中でその人らしく生活する事を支えるケア」が位置づけられている。地域に根ざしたケアが既実践されており、地域密着型として具体的なイメージのわく笠松の郷独自の理念にを作り変えていく事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は月2回行われるミーティングや日々のケアの中で常に話し合い理念を共有しており、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の神社の秋祭りや、小学校の卒業式に参加したり、幼稚園、小学校、中学校の合同の運動会に参加し、地元の人々と交流している。今年4月に行われた5周年記念には地域の方に参加を呼びかけている。災害時の応援等も地域に協力をお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かし、地域の神社の秋祭りや、小学校の卒業式に参加したり、幼稚園、小学校、中学校の合同の運動会に参加し、地元の人々と交流している。今年4月に行われた5周年記念には地域の方に参加を呼びかけた。今回の自己評価項目総てにおいて、今以上にレベルアップが出来るように管理者、職員が一丸となり取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には理事長、常務理事、管理者、職員2名、老人クラブ、宮若市健康増進課、民生委員、知見者、利用者家族多数、利用者が参加しデジカメを駆使し、声と映像で近況報告をしている、またその時々に応じた内容の話し合いを行っている。外部評価は、コピーをして家族、運営推進会議出席者に配布し、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは連携が取れており、共に質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会や運営推進会議開催時に説明パンフレットも渡している。現在利用している利用者はいないが、必要な人には活用できるように支援できる体制はある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真入りの便りを出している。また多くの家族が出席する運営推進会議でも、パワーポイントやデジカメで報告をしている。金銭の取り扱いは毎月行っている個別の面談で報告し、確認をいただいている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しているが家族の訪問も多くあり、話せる雰囲気作りを心がけ、頂いた意見は職員間で迅速に対応をしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は行われていない。現在は職員の離職はない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20歳代から70歳代まで、また男性職員も採用されており、職員の採用に当たり、性別や、年齢で対象から排除される事はない。職員は生き生きとして勤務しており、有給休暇も取得しやすく、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び、管理者は理念である「生活のこころよさが生きるこころよさになるところ」を掲げ、笠松の郷が大切にしているものとして「①お年寄りの笑顔②普通に暮らす権利③人としての尊厳④今日という豊かな一日⑤ご家族とともに」の五つを挙げ日々のケアの中で、言葉で、また、自己の実践する姿勢で人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員を各自の段階に応じ、研修は職務免除、出勤とみなし、全員に外部研修に参加する機会の確保をしており、伝達研修も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	他グループホームと人事交流を行い、お互いの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	体験入居をしていただく事により本人が納得して入居出来るようにしている。入居が決まったら管理者が自宅に訪問し、自宅の写真を取り、職員と話し合いながら、出来るだけ自宅での環境に近づける工夫をし、落ち着ける環境づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は利用者と一緒に過ごす事により、喜怒哀楽を共にし、必要な部分の援助を行いながら、利用者から感謝する気持ちを学んだり、励まされ、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々の暮らしの中で、本人の言葉や行動から思いや願いを汲み取り、介護に当たるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人や家族の意向や状態を把握した上で月1回の全体ミーティングで出し合った意見をもとに、介護計画を作成している。2時間の予定を越える事も度々あるほど、活発な意見を出し合っている。		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヵ月毎に介護計画の見直しを行い、毎月の評価も介護計画に記載している。状態が変化した場合、月に何度も見直す事も少なくない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する母体病院の退院予定の患者やその家族、また地域の方からの相談や助言を求められる事が増えている。管理者は地域に出向き講演活動を行い、認知症介護の技術や知識を広く地域住民に提供している。また今年度よりショートステイの指定も受けている。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者である理事長が医師であり毎月回診を行っている。隣接する母体病院や専門医を受診するなどの体制も出来ている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認し、医師との連携を図りながら希望に添う形で支援している。調査時一人終末期の利用者がおられたが全職員が昼夜を問わず手厚い介護に取り組んでいた。		
1. その人らしい暮らしの支援					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日の生活の中で、プライドを傷つけないような声かけや態度で常に尊敬の心で接している。また書類は事務所に管理し職員以外の人の目に触れないようにきちんと保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが他の利用者とは大きくずれがある利用者がおられたが、それもその方の個性と捉え、特に問題視せず全職員が介護に当たっている。昼過ぎに起き明け方寝る生活が続いたり1日中起きている事もあるが共同生活に特に支障はないとし服薬に頼らず総てを包み込むような介護をしている。		
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の進行に伴い、最近職員と一緒に食事の準備や後片付けが出来る利用者が限られてきたが、食卓のテーブルやお皿拭きをしている利用者の姿があった。直接的な手伝いは出来なくても食卓を皆で囲める幸せを感じて頂けるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて朝からいつでも入浴が出来る。週に何回と決めるのではなく毎日でも入って頂けるように支援している。なかなか入浴をされない利用者に対しては、湯船にバラの花を浮かべたり浸りながら好きな物を食べて頂くなど職員は色々なアイデアを出し楽しんで入浴をして頂けるように取り組んでいる。どうしても難しい方には清拭で清潔保持に努めている。		
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を詳細に記録に残している。これまでの生き方や出来事が目に浮かぶような内容となっており、これをもとにそれぞれの役割や楽しみごとに繋がるように日々支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	調査日も職員と一緒に車で買い物に出かける利用者がおられた。毎月花見や地域のお寺のお祭りに出かけている。またその日の天気や本人の希望に添っていつでも外出が出来る体制にある。		
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝は早出の職員が出勤する7時30分から夜は遅出の職員が帰る19時まで玄関の鍵は開いている。敷地の入り口は常時出入りが可能である。開設当時より鍵を掛けることの弊害を十分理解し全職員が介護に取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体病院の避難訓練に参加している。またケアハウスと合同の消化訓練も実施し消防署に報告をしている。昨年は消防設備を増設するなど対策も万全である。職員による自衛消防隊を作ると共に火災時のマニュアルや連絡網を事務所の壁に貼り、地域の駐在所、民生委員、公民館長、消防団への協力体制も出来ている。	○	グループホーム独自で昼間と夜間を想定した避難訓練を実施して欲しい。消防署や地域にも協力を求め実施する事で、より一層利用者と家族の安心が得られるように、今後の取り組みに期待したい。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や食事制限のある利用者については、主治医より味噌汁は半分に薄めるようになど、具体的な指導を受け実施している。また定期的に母体病院の管理栄養士による専門的なアドバイスを受けており、栄養が偏らないように配慮している		
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	蛍光灯には木と和紙を使った手作りのカバーが掛けられ、間接照明で光が柔らかい。廊下や玄関先にも椅子を配置し、くつろげる空間になっている。玄関の花は週ごとに生け替えられ、玄関入り口には季節の花を植え心地よい。また玄関入り口に利用者一人ひとりの郵便受けがあり自分の家との認識を持つ事が出来る。まさに第二の我が家である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居にあたり事前に家庭訪問をし、写真を撮り出来るだけ自宅の雰囲気に近づけるように居室の工夫をしている。利用者それぞれ使い慣れたタンスや思い出の品々を持ち込んでいる。長年使っていた鏡に職員が台を取り付ける等、愛情あふれる配慮が到る所に見受けられた。</p>		